

# インディアカ

## 1.概要

羽をつけた特殊なボールを、2チームがネットを隔てて打ち合うラリーゲームである。ブラジルのインディアンの伝承ゲーム「ペティカ」を、ドイツのスポーツ学校の教師クローン・K が、1936 年に用具に改良を加えスポーツ化したもの。日本には 1970 年に紹介した。

## 2.用具

- ・インディアカ(右写真、長さ 25 cm、重さ 50g)
- ・インディアカ専用ネット(バドミントン用兼用可)
- ・インディアカ用支柱(バドミントン支柱兼用可)
- ・スペア羽根(羽根の部分が傷んだときの予備)
- ・得点板



## 3.コート

バドミントンのシングルス、ダブルス兼用コートの外側を使用する。ただし、ネットの高さは男子 2.15m、女子 2.00m、男女混合 2.15m、シニア女子 1.85m、シニア男女混合 2.00m、とする。2001 年度版よりパッシング・ザ・センターラインを設けてあります。(地域特性でネットの高さやパッシング・ザ・センターラインを決めているのが現状です)

## 4.人数

- ①コート内競技者は4名(男女混合は2～3名の女子がいること)で、交替競技者を4名までおくことができる。
- ②コート内での競技者は、前列3名、後列1名に分かれ、左右及び前後の競技者は足が触れ合わないように位置する。
- ③前列競技者(3名)は、どの位置からもアタックプレーができ、ブロッキングにも参加できるが後列競技者(1名)は、アタックライン後方からのアタックプレーはできるがフロントゾーンでのアタックプレー及びブロッキングに参加することはできない。

## 5.競技の進め方

- ①ジャンケンで勝ったチームがサービスコートかコート内のいずれかを選択する。
- ②両チームはインディアカを自陣コート内の床面に落とさないようにし、ネットを越して互いに打ち合う。
- ③各セットはラリーポイント 21 点先取制とする。20 対 20 になったらジュースに入り、その後 2 点勝ち越したチームがそのセットの勝利者になる。
- ④コートはセットごとに交替する。また第3セットは、いずれかのチームが 11 点先取したときに交替する。そのときサービス権は移行せず、交代時のまま続行する。
- ⑤3セットマッチ制で、2セット先取したチームが勝ちとなる。

## 6.サービス

- ・サービスとは、後列右の競技者が、自コートのエンドライン右半分の後方から、インディアカの台を手で持ち、もう一方の手のアンダーハンドで相手側コート内に打ち込むプレーをいう。（小学生以下においては「アンダーハンドで打たれなかった場合」のみ指導を与え、1回だけやり直すことができる。）
- ・サービスは1回とし、インディアカボールがネットに触れた場合は失敗となる。また、相手側に得点されるまで同じ競技者がサービスを行う。
- ・インディアカを打つ瞬間サーバーの両足はエンドラインの後方にあり、右サイドラインの想像延長線より外、またエンドラインの中央より左に踏み出してはならない。（サービスをするときの足の位置が上記規定範囲にあれば、走りながらでも、ジャンプしながらでも反則とはならない。）
- ・サービスによって、インプレーの状態になるまで、両チームの競技者は、ローテーションオーダーに示された位置にいないといけない。
- ・もしも、サーバーがインディアカを手から離して地上に落としても、身体に触れていない場合は、サービスを1回だけやり直すことができる。
- ・主審が笛を吹く前にサービスを行った場合、そのサービスはとり消され、やり直しとなる。
- ・サーバーの動作を隠すために、サービングチームの競技者は、腕を動かしたり、跳びはねたり、あるいは、スクリーンを組むために2人以上集まったりしてはいけない。
- ・第2セット以降の最初のサービスは、前セットで、最初のサービスをしなかったチームが行う。
- ・小学生以下の競技者は、ショートサービスゾーンからサービスすることができる。

## 7.ポイント

以下の場合、サービス権を持っているチームはサービス権を失い、相手に 1 点を与える。また、サービス権を持っていないチームは、相手に1点を与える。

- ・インディアカが地表に触れたとき。
- ・同一チームの競技者が4回以上続けてプレーしたとき。（オーバータイムス）ただし、ブロッキン

グとネットプレーをした時はこの限りではない。

- ・インディアカが、競技者の手あるいは腕などに静止したとき。すくったり、持ち上げたり、押しつけたりして、明瞭に打たなかったとき。(ホールディング)
- ・インディアカを、肘より先の部位以外でプレーしたとき、および、両手で同時にプレーしたとき。(ブロックの場合のみ、両手で同時にプレーすることが認められている。)
- ・同一競技者が、2回以上続けてインディアカに触れたとき。(ドリブル)ただし、インディアカがネットに触れたときは、続けて1回だけプレーできる。
- ・サーバーを除く競技者が、サービス時にコートの外にでていたとき。(コートアウト)
- ・インプレーの状態にあるときに、競技者の身体または衣服がネットに触れたとき。(タッチネット)ただし、インディアカがネットに触れて、ネットを押し、反対側の競技者が触れた場合は、タッチネットにはならない。
- ・ネットを越えて、相手側コートにあるインディアカに触れたとき。(オーバーネット)ただし、アタックしたのちに手がネットを越えた場合はオーバーネットにはならない。
- ・インディアカが、ネットの上を完全に通過しなかったとき。
- ・インディアカが、自陣のネットにひっかかったとき。(ただし、ネットの上縁でインディアカが静止した場合は、やり直しとなる。)
- ・インディアカが、コート外の地面、物体に触れたとき。または、支柱に触れたとき。ネットの下を通過したとき。ネットの外側のセンターライン想像延長線上を完全に通過したとき。(アウトオブバウンズ)
- ・両チームの競技者によって犯された反則は、最初に犯した競技者だけを採り上げる。ただし、反則が同時であったときは、ダブルファウルとなり、やり直す。
- ・インプレー状態にあるとき、相手側のコートにおいて、相手側の競技者に触れたり、相手チームのプレーを妨害したとき。(インターフェア)ただし、相手側の競技者に触れず、相手チームのプレーを妨害していない場合は、インターフェアにはならない。
- ・意識的にゲームを遅延させたとき。
- ・相手側に向かって、足を踏みならすなど、不必要な身振りをしたとき。
- ・サービスが、サービスエリアで行われなかったとき。
- ・サービスを行う瞬間に、サーバーがエンドラインに触れるか、踏み越えた時。
- ・サービスしたインディアカが、同一チームの競技者の助けにより、ネットを越えたとき。
- ・ローテーション順が、サービス中に守られなかったとき。
- ・サービスが正当に行われなかったとき。
- ・サーバーの動作を隠すために、腕を動かしたり、跳びはねたり、2人以上集まってスクリーンを形成したとき。
- ・サービスの際に、ローテーションオーダーに示された位置を守らなかったとき。(アウトオブポジション)

## 8.ローテーション

- ・サービス権を得たチームは、直ちに時計の針と同じ方向へ、メンバーの位置を1つずつ移動する。(ローテーション)
- ・セット開始前なら、競技者の位置を、前のセットと変更してもよい。

## 9 タイムアウト

### 【競技者交替のタイムアウト】

- ・インディアカがデットのとき、競技者交替のタイムアウトを、1セットに3回までとることができ、1回につき3名まで交替できる。
- ・交替する競技者は、抜けた競技者のローテーションオーダーの位置に入る。

### 【休息のタイムアウト】

- ・インディアカがデットのとき、各チームは休息のタイムアウトを、1セットに1回、30秒までとることができる。

### 【審判のタイムアウト】

- ・審判は競技者の負傷などの理由により、タイムアウトをとることができる。

### 【セット間のタイムアウト】

- ・セット間に、3分間のタイムアウトをおく。

## 10 その他

- ・インディアカは素手で打たなければならない。
- ・テーピングなどを手に行うことも禁じられる。もし、手の傷害によってプレーが困難である場合のみ、主審の許可を得て傷害の部分だけを保護する処置を認められる